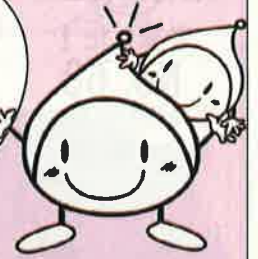


ささえ

登録団体の活動
が活発になっていま
す。自分たちの活動
に誇りを持っておられ
ます。いいことだな！



エールくんとミニさぼちゃん

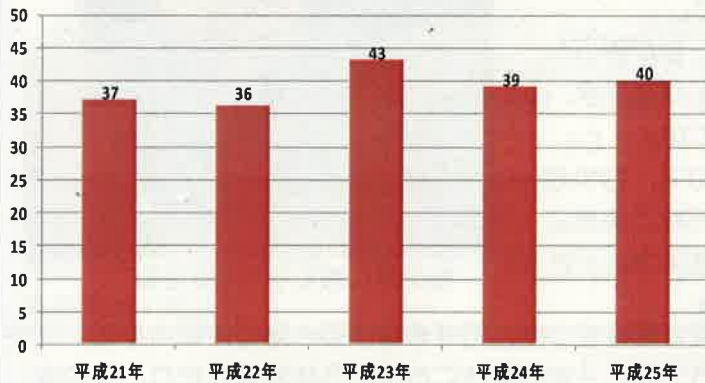
奇数月発行

統計を活かして活動しよう！

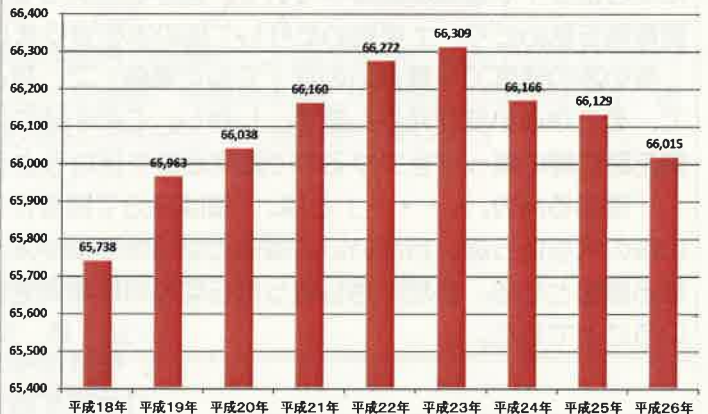
平成18年、岩国市合併当初の人口は151,676人で、現在は約1万人減の141,681人となっています。そのうち、15歳以上65歳未満の生産年齢人口は、10年後には4分の3、25年後には半分になると予測されています。当然、税収も少なくなり、行政にも限界があるため、地域の活性化を図るにはNPOや企業、大学、商工会、行政など多様な団体が協働するとともに、自然、歴史、文化などの地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出が求められています。

今後、事業型の地域づくり活動を育てるためにも、岩国市の高齢化率、出生率、若者定着率、年齢別運転免許証保持者、空き家状況、一人世帯状況、耕作放棄地など数字で表した統計を活かして地域の活性化につながる企画を提案し、岩国発の地域ビジネスが生まれたいですね。

岩国市NPO法人の推移

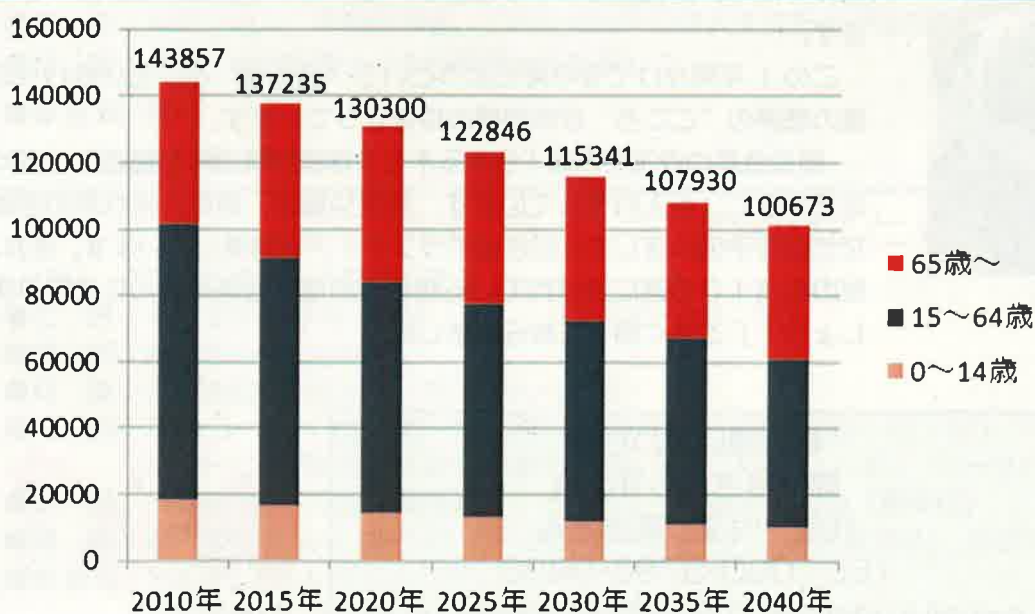


岩国市世帯数



将来推定人口

生産年齢人口（15歳～64歳）の数が徐々に少なくなっている。



地域ビジネス事例

- ・商店街活性化（空き店舗活用、地域活動）、地域金融（ファンド）
- ・中高年の就業支援、障がい者の就業支援
- ・自然体験、国際交流イベント、観光資源活用
- ・地域ポータルサイト運営、システム開発
- ・民間保育施設の運営、高齢者、障がい者の介護サービス
- ・子育て支援、青少年教育さぼーと

取材に行って
きました！
No. 68

会員募集！ 錦帯橋さくら守の会



さくら守の会代表 児玉さん

岩国市の観光のシンボルである錦帯橋の桜を守り育てようと、平成25年3月に市民ボランティア団体「錦帯橋さくら守の会」が結成されました。

同会は中国新聞文化センター岩国教室が開いた「錦帯橋さくら守養成講座」で桜の手入れなどを学んだメンバーで結成されました。

岩国市出身の中国新聞記者が企画し、5名の受講者が座学や錦帯橋周辺で実際に剪定、施肥、消毒の方法を学びました。

現在、会員18名。入会金1,000円、年会費2,000円で、月1回、第2月曜日に活動しています。

錦帯橋周辺には3,000本の桜があるといわれ、桜の名所100選に選ばれています。

一般的にソメイヨシノの寿命は40年から60年といわれていますが、古いものは130年以上のソメイヨシノの木があるそうです。

手入れをすることによって寿命を延ばしていきたいと、同会は1月から2月にかけて肥料を施し、5月にはお礼肥をされています。しかし、今の会員では300本ぐらいしか手入れができないそうです。

その他、病害虫から守るため消毒をしたり、枯れた木を剪定したりしています。先日も剪定作業をしていたところ、桜の木の枯れた部分に空き缶が10個以上詰まっていた、驚かれたようです。その部分に消毒剤を詰めたり、土を詰めたりして桜の木を守りました。

桜の木の病気で一番多いのが「てんぐ巣病」で、枝の一部が膨らんで、そこから小枝が発生します。しかし、この小枝には花が咲かず、開花時に緑の葉っぱをつけるので鑑賞価値を損なうようです。

「桜切るバカ、・・・」とは、「桜は自分で枝を作るので、むやみに桜の木を切らない方がいい。切ると切口から虫が入ったり、病気になる原因となる。また、もし切ったら切り口に薬剤を塗るように」ということでした。



トラックいっぱいの枯れ木



錦帯橋さくら守の会のみなさん



桜の幹に捨てられた空き缶

桜は前年の夏に花芽をつけ、花芽をつけると葉で休眠ホルモンを作り休眠するそうです。一定の寒さに合ったら休眠がとかれ、その後、暖くなると開花を迎えます。多くの桜の花をつけるためには、花が終わった時、お礼肥をしっかり施し、枯れた木を剪定する必要があります。

この1年間かけて守り育てようという“こころ”と、花が終わった後の感謝の“こころ”が錦帯橋の桜を守っています。

同会会長の児玉さんは「今ある木を今年より次の年の花の数が増えるように、手入れをしています。剪定や施肥、消毒、枯れ木の運搬などのお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています。是非、桜の名所100選に選ばれている錦帯橋の桜を地域みんなで守りましょう！」と熱く語っておられました。



●お問い合わせ●

錦帯橋さくら守の会

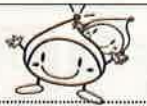
代表 児玉 廣志さん

TEL 090-3786-9938

e-mail kodama-h1659@fc4.so-net.ne.jp



市民活動団体のイベント情報



「歌って元気になろう！」

歌うと元気が出てくることを実感している錦会（岩国失語症友の会）の企画。歌やレクリエーションの経験豊富な言語聴覚士が司会進行し、参加者の声域やペースに合わせてみんなで歌います。声が出にくくなった方や言葉が少なくなったと感じている方、是非、お越しください。

- と き 平成26年4月20日（日） 14:30~15:30
- 場 所 シンフォニア岩国 第2練習室
- 問合せ 錦会（岩国失語症友の会）事務局 Tel 0827-21-6068（村重）

「市民活動カフェ2014 多くの来場者で賑わう」

平成26年1月26日（日）、岩国市民会館にて市民活動カフェ2014が開催されました。市民活動団体40団体が普段の活動の様子を紹介し、1,600人の来場者で賑わいました。手話や要約筆記、点訳、インターネットの体験や血圧測定、物づくり体験など老若男女の多くの人々が参加しました。

おもちゃ交換ひろばでは、「昨年のおもちゃ交換ひろばで木のおもちゃを交換しました。1年間大切に使って、また皆さんに使って頂きたいと持って来ました。」とありがたい“ことば”をいただきました。担当スタッフも「物を大切に作る心を育てる」目的が理解していただいたことに感激しました。



エコキャップアート はあすちゃん



支援センターからのお知らせ

「NPO 法人必須！事務“力”アップ講座」

あなたの法人では年度末を迎え、NPO 法人に必要な事務手続きや所轄庁への届出事務に悩んでいませんか？適正な届出がされているNPO 法人は社会から信頼を得ることが出来、多様な主体との協働につながります。決算や登記の変更、事業報告、予算書の作成、労務など事務力向上をめざして一緒に学びましょう！

- と き：平成26年3月15日（土） 13:30~16:30
- 場 所：岩国市中央公民館 第2講座室
- 対 象：NPO 法人事務担当者、市民、これからNPO 法人設立を考えている方
- 講 師：加藤彰子さん（NPO 法人岡山NPO センター、NPO 事務支援センター・センター長）
- 参加料：無料
- 定 員：30人

「税務相談」

- と き：平成26年3月19日（水） 18:30~
- 場 所：岩国市中央公民館 第3講座室
- 対 象：NPO 法人 事務担当者、これからNPO 法人を立ち上げる方
- 講 師：今村 貴博税理士（今村税理士事務所）
- 参加料：無料
- 定 員：5 団体《要予約》

「ママカフェ このゆびとまれ！」

パパ、ママ、妊婦さん大歓迎です♪

- と き：平成26年3月29日（土） 10:00~15:30
- 場 所：岩国市中央公民館
- 対 象：主に乳幼児の保護者（妊婦さんも歓迎）
- 内 容：カフェコーナー（10:00~15:30）、母推コーナー（10:00~15:30）、ベビーマッサージ講座（10時~、11時~、13時~、14時~）、離乳食講座（10:00~12:00）、ベビーサイン講座（13:00~14:00）
- 定 員：各講座20人程度《要予約》 その他コーナーは参加自由《要受付》
- 講 師：島内まり子さん（ベビーマッサージ）、松永敦子さん（離乳食講座）、保田千重さん（ベビーサイン）
- 参加料：100円（大人1人につき）
※託児あり 乳幼児、未就学児のみ《要予約》



助成金ニュース

①内容、対象②助成金額、助成率③締切④問合せ先
*詳しくは、センター又は各問合せ先までお願いします。

2014年度 ドコモ市民活動団体への助成

- ① 「子どもを守る」「環境を守る」という視点に立った活動テーマにふさわしい支援活動
- ② 1団体あたり標準額50万円、上限100万円、約8割
- ③ 平成26年4月21日(月)
- ④ NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド Tel: 03-3509-7651

平成26年度 きらめき活動助成事業

- ① 育成コース: スタートアップ助成事業、ステップアップ助成事業
チャレンジ支援コース: 県民活動助成事業、男女共同参画助成事業、文化活動助成事業他
- ② 10万円以内~80万円以内、1/2~10/10
- ③ 平成26年3月31日(月) ※今年度は、締切が早くなりました。
- ④ 公益財団法人山口きらめき財団 Tel: 083-929-3600

平成26年度 青少年健全育成事業

- ① 1. 心身共にたくましい青少年を育成するための活動に関する事業
2. 山口県に関わる先賢の顕彰、歴史の伝承普及のための活動に関する事業
- ② 10万円以内、1/3
- ③ 平成26年4月28日(月)
- ④ 一般財団法人 愛山青少年活動推進財団 Tel: 083-932-2660



岩国のへえ~ 59の巻

編集後記

新港にある岩国港は麻里布湊みなとと呼ばれていた!

現在の岩国港は、当初麻里布湊と呼ばれ、明治・大正・昭和の戦中までは新港と呼ばれていた。新港はいまも町名として残っている。

交通の利便を考え、経済を活性化するため、岩国藩政府の命を受けて岩国町人塩屋勘左衛門が新港を作ったと伝えられている。

それまでは今津川を港にしていたが、沖合遠浅で、自他の諸船が河口付近の出入が不便だったので、商用向きの繁昌の為、築港となった。

藩の経済は自給自足を原則としていたが、それを破る広域経済、交換経済をもくろむ築港は新しい経済感を立脚するものであった。新港というのは、ただの新旧だけでなく、新時代の港という意味だったのだろうか。

麻里布湊を開いた香川琴山は、港の繁盛を祈って、港町に住吉神社を勧請した。

新港ももとは麻里布町に属していたが、岩国港から海上26km先の柱島も麻里布町に属していた。(参考:「岩国の歴史散歩・岩国郷土誌稿」)

2月26日に、岡山県にあるボランティア、NPO 活動支援センター「ゆうあいセンター」に行ってきました!センターの施設はとても広く、設備等が整っており県民の方々が活動しやすい環境でした。スタッフも、岡山を活性化するためにプレゼン能力向上など日々個人のスキルアップをしておられ、私自身多くの刺激を受けました。

日々、ホームページの更新をしています。皆様により良い情報を届け、岩国を盛り上げたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。(フジ)

支援センター利用状況(1、2月)

- ・印刷、コピー、大判プリント 299件
- ・相談 44件
- ・登録団体数 92団体(のべ数)

発行: いわくに市民活動支援センター

〒741-0062 岩国市岩国 4-4-15
 (岩国市中央公民館 3階)
 TEL 0827-44-0288 FAX 0827-44-0324
 E-mail: shien@sky.icn-tv.ne.jp
<http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~shien/>